

凡 例

1. 測量座標値は、世界測地系を用いた。標高はすべて海拔をあらわす。
2. 調査日誌は、原文をできるだけ忠実に転載した。なお日誌原本に書き込まれた図は、本報告では省略した。
3. 壁面図は、土層の連続性を理解しやすくするために、原図の一部を鏡像にしてトレースした。
4. 壁面の土層名は、基本的に原図記載のままだが、表現を一部補った。
5. 壁面図において、土層の性格に応じて以下のような色分けをおこなっている。

(挿図)  第2整地土  版築土  地山

6. 土器資料においては、実測図断面を以下のように表現することで種類の違いを示した。

(挿図)  土師器  瓦器  須恵器・陶磁器

7. 瓦の分類と時期区分に関しては、以下の文献で公表されているものに基本的に依拠した。
法隆寺昭和資財帳編集委員会 1992 『昭和資財帳第15巻 法隆寺の至宝 瓦』 小学館
なお、本文中でこれを引用する場合は『至宝』とのみ略する場合がある。
8. 軒瓦については、ほぼすべてを網羅して報告した。
9. 瓦の実測図の縮尺は、軒丸瓦・軒平瓦・道具瓦を1:4、丸瓦・平瓦を1:5に統一している。
10. 軒丸瓦の丸瓦取り付け位置は、拓本に「▶」で示している。
11. 残存率の高い蓮華文軒丸瓦の実測図は、上半部で弁央、下半部で間弁を表現し、見通し部分を細線で描くことを原則としている。破片資料はその限りではなく、実測ラインを「|」で示しているが、合成して復原したものには示していない。また、軒平瓦にはすべて実測ラインを示し、見通し部分を細線で描いている。
12. 瓦の調整を記述する際には、軒瓦、丸・平瓦ともに長軸方向を「タテ」、短軸方向を「ヨコ」としている。軒瓦の瓦当部の調整については、瓦を葺いた状態で上下方向を「タテ」、左右方向を「ヨコ」、また軒平瓦瓦当の部位表現については、瓦当面を正面から見た状態で「右」「左」としている。
13. 瓦の色調については、『新版 標準土色帖』を用いた。